

### 1、前提 - 世界遺産をめぐる -

- ・世界遺産登録は、遠い「目標」ではあっても、それ自体が目的ではない。過程を重視。  
（志摩の）海女文化を位置付ける。  
環境・資源管理の問題として議論。  
日本と韓国との国際交流。海女同士の親善。 = 十分な意義。
- ・韓国側に対応できるだけの実証的研究の蓄積が必要。  
\* 万葉集の世界、近代以降の民俗調査に偏り。実証的な歴史研究に乏しい原状。
- ・日本の中で、志摩の海女の特異性（普遍性）の確認。志摩で多くの海女が残った条件。

### 2、志摩の海女と伊勢神宮

- ・御饌国としての志摩国（それはともかく...）。  
耽羅鮑の献上（これもともかく...）。  
\* 中世段階の実態が分からない。
- ・江戸時代に国崎から神饌（贄）として伊勢神宮に鮑を献上。  
何時から（本当に「二千年継続」？）いかなる体制か。  
神饌鮑を採るためには、神島、答志～石鏡、相差、安乗の海女も参加？  
明治4(1871)年御贄制度廃止。
- ・贄をめぐる地域社会（一般論で）  
近隣との漁業紛争を有利に導くため、江戸時代後期、浦村側から新たに御贄を献上。  
幕末の朝幕関係流動化のなか、大宮司が御厨（贄献上）復興を働き掛ける動きも。  
安政元(1854)年以降、国崎村と石鏡村との間で村領（海岸線）争論発生。  
漁民の信仰というレベルではない問題。検証が必要。

### 3、志摩海女の出稼ぎ

- （事実関係は中田四朗他「志摩の海女の北海道・朝鮮進出」(『三重史学』22、1979年)
- ・紀伊半島、相模、伊豆、房総半島へ出稼ぎ（越賀、和具、相差）。江戸時代前期から。  
\* その実態は不明（差出帳、人別改帳など）。
- ・北海道へ出稼ぎ（利尻、礼文へ）。明治26年頃から。  
越賀村の山本清市以下男10人と海女27人で出願。  
三重県、北海道庁へ照会。「漁業雇夫」となること、漁業組合を通して出願すべし。  
\* 江戸時代の出稼ぎと共通する体制か。
- ・朝鮮国への出稼ぎ。明治28(1895)年頃から。  
釜山、元山港へ（済州島ではない）。渡航許可出願、兵庫県庁宛て。  
採取した鮑、海鼠は釜山へ運搬。大阪の松下彦兵衛支店に売渡す契約。  
明治31(1898)年以降、雇主による出稼ぎに変化。長崎西彼杵郡淵出村の竹内福造。  
雇用者との間に契約書。大阪市西区江戸堀南通の主馬太兵衛に雇われた者。  
\* 前提として、江戸時代に遡る人的ネットワークがあったはず。

#### 4、海女の出稼ぎをめぐる課題

- ・ 漁業権との関わり。遠洋漁業や雇われ漁夫としての出稼ぎとは異なる問題。  
出稼ぎ先での浦村との関係。  
鐘崎の海女(?)、舩倉島の漁業権を確保、との指摘。  
\* 磯辺の漁業権と海辺の漁業権は、いつどのように分離するのか。磯は誰のもの?
- ・ 何故出稼ぎに行くのか。磯焼けで減少? 一方で他から出稼ぎに来るという関係。
- ・ 出稼ぎに行く体制。海女を取り巻く人間、そのネットワーク。  
海女たちだけ、夫婦だけで行くのではない。  
遠隔地の商人資本の介在。  
\* 日清戦争の影響下。国策もあったはず…。日本の占領政策との関連。  
\* 商人資本と志摩(紀伊半島。どのようなつながりか。  
五島列島と紀伊半島。紀伊半島の捕鯨業に長崎商人が資金投下との説も…。
- ・ 出稼ぎ海女と出稼ぎ地の社会、特に現地の海女、出稼ぎ海女同士の関係  
近代以降、濟州島の海女が志摩、紀伊半島へ。  
利尻・礼文には志摩の海女が居着き、志摩の民俗、文化を伝える(吉村氏)  
朝鮮への出稼ぎ海女、船上生活(中田論文)。朝鮮からの出稼ぎ海女も小屋へ収容?  
明治期の双方の海女出稼ぎは、地域社会との交流なし?

#### 5、女性史としての海女研究

- ・ 海女を取り巻く(出稼ぎ差配)人間関係 = 男社会。流通(市場)にもタッチせず?
- ・ 海女仲間の組織の不在? フナド(夫婦)はともかくカチドも?  
海女小屋での交流はあっても。技術は母娘伝承か。高齢でも海女として活躍。  
漁業権に関わるのは男。江戸時代の贄献上、浦村としての権利確保。  
現在、口明け日や潜る期間の決定は漁業組合。海女の発言権は?

#### 6、可能な調査研究

##### 越賀文書の調査

中田論文、明治33(1900)年以後の調査は放置。

この時期以降の文書調査が急務(「こんにやく版」史料)。

海女を取り巻く人間関係の解明へ。

##### 神宮文庫の「神宮編年記」他の調査

国崎と伊勢神宮との関係、贄の機能、時期的変化の解明へ。

##### 出稼ぎ先での史料調査

千葉県立文書館、神奈川県立公文書館、静岡県立図書館他。利尻・礼文も。

出稼ぎ先の地域社会との関係解明へ。

##### 伊勢新聞[明治11(1878)年創刊]の関係記事調査

現在進行中。

明治期以降の朝鮮への出稼ぎ、濟州島海女の志摩・紀州への出稼ぎの実態解明へ。